

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：33707

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381105

研究課題名(和文) 総力戦体制下の保育雑誌に見る「国民保育」論の生成と展開 『国民保育』誌を中心に

研究課題名(英文) Formation and Development of Imperial Way Faction Thinking in Early Childhood Education as Seen in Kokumin Hoiku: 1941-1943

研究代表者

浅野 俊和 (ASANO, Toshikazu)

中部学院大学・教育学部・教授

研究者番号：00300351

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、まず、アジア・太平洋戦争下の雑誌『国民保育』(国民保育協会編輯、フレーベル館・日本保育館発行、1941年1月～1943年7月)について、その所蔵先を調査し、編輯・発行された全31号のうち、第3巻第3号・同巻第4号以外の29号分に関する所在を確認した。また、そうした成果を踏まえ、同誌の書誌を押さえるとともに、創刊から終刊に至るまでの誌面構成や主だった論調の変化をたどること、歴史に埋もれていた同誌の輪郭も描き出している。

研究成果の概要(英文)：This study on a monthly magazine Kokumin Hoiku for kindergarten teachers and mothers during the Second World War produced two results. First, it identified 29 of all the 31 issues of the magazine published between January 1941 and July 1943 by checking on the libraries that owned the forgotten magazine. Second, it presented the extreme-nationalistic content of the magazine in the early 1940s by examining the bibliographic data and changes in the editorial policy.

研究分野：幼児保育史

キーワード：国民保育協会 フレーベル館 日本保育館

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の保育・幼児教育史において、1930年代末から1940年代前半にかけての時期、いわゆる「総力戦体制」下は最も研究が遅れている時代に当たる。明治・大正期や昭和戦後期と比較して、先行研究の蓄積には歴然の差が見られる。その遅れの理由としては、大まかに見て2つの点をあげることができる。すなわち、1つは、史料や記録物が戦災によって散逸・焼失したり、戦後処理の過程で廃棄処分されたりしたためにあまり残されていないこと、もう1つは、「戦争協力」の問題などと関わって思想的な評価が難しく、非常に扱いにくい時期だということである。

しかし、史料の乏しさや思想的評価の難しさという同様の条件を抱えながらも、他分野・領域では、今日に至るまで史料・記録物の発掘が数多く試みられ、積極的な研究も蓄積されている。例えば、初等・中等教育史では、教育ジャーナリズム史研究会編『教育関係雑誌目次集成(全101巻)』(日本図書センター、1986年-1994年)の編集、『教育』や『教育科学研究』、『日本教育』などの雑誌や単行本の復刻が相次いで行われ、国民学校及び少国民錬成、戦時下教育運動等に関する研究も重ねられてきた。また、社会事業史でも、社会事業史文献調査会編『社会事業雑誌目次総覧(全16巻・別巻)』(日本図書センター、1988年)と相前後して復刻がはじまり、今日まで出版が続いている各シリーズの提供した史料等によって、異常児や養護・教護、母子保健、児童虐待防止の問題など、戦時期における児童保護を扱う研究は、飛躍的な広がりを見せている。

それら他分野・領域の状況と比べれば、保育・幼児教育史研究での総力戦体制下に関する関心の低さは明らかであろう。確かに、史料の復刻に関して、単行本では、岡田正章監修『大正・昭和保育文献集(全14巻・別巻)』(日本らいぶらり、1978年)がまとめられている。しかし、収録文献は大正・昭和初期に偏りがちで、1940年代前半期のものはわずか3冊である。また、その時期に刊行されていた保育雑誌も、まとめて手に取れる状態となっているものは、保育問題研究・児童問題研究復刻刊行会編『保育問題研究・児童問題研究(全7巻)』(白石書店、1977年-1978年)及び幼児の教育復刻刊行会『幼児の教育(全51巻・別巻)』(名著刊行会、1979年-1981年)の2件に過ぎず、前述した目次集成・総覧に掲げられている『保育』や『愛育』など、当時の状況を知る上で不可欠となる文献の復刻は未だになされていない。すなわち、戦中期の保育・幼児教育に関する史料・記録物の整理は著しく遅れており、発掘作業も停滞しているのである。

とはいえ、そうした基礎資料が未整備の中でも、総力戦体制下の保育・幼児教育を扱った研究は、ある程度まで行われてきていた。それらの中で当時の状況を集中的に取りあ

げたものとして、通史では、日本保育学会『日本幼児保育史(第4巻・第5巻)』(フレーベル館、1971年-1974年)とともに、その著者の1人であった穴戸健夫が著書『日本の幼児保育 昭和保育思想史(上)』(青木書店、1988年)へと発展的にまとめていった各研究をあげることができる。また、穴戸の後に続いた松本園子・浅野俊和らの「保育問題研究会」研究、吉長真子・河合隆平・西脇二葉らによる恩賜財団愛育会研究などの個別史も注目される。

## 2. 研究の目的

研究代表者(浅野俊和)は、前述したように、「保育問題研究会」(1936(昭和11)年結成、1943(昭和18)年解散)を中心とする戦時下保育運動に着目し、学会での口頭発表や紀要論文の執筆・投稿を重ねてきている。とりわけ、科学研究費(基盤研究(C))課題番号:23531090)の助成を受け、先行研究で看過されがちであった末期「保問研」の動向に絞って、総力戦体制下における「抵抗と協力」の問題を検討してきた。

1930年代末から1940年代前半にかけての国家的児童観を基盤とする保育論、いわゆる「国民保育」論については、復刻版の有無を問わず、当時出版された単行本とともに、すでに書誌が確認されている『幼児の教育』や『社会事業(厚生問題)』、『保育問題研究(保育問題研究会月報)』、『愛育』などの雑誌に基づいて、穴戸・松本・河合らによる研究はなされた。研究代表者は、批判的な立場から、そうした単行本・雑誌以外の文献などを積極的に調査・収集し、先行研究には見られなかった知見も示して来ている。そのような過程で行った調査において、当時は、新たな雑誌『国民保育』が創刊・発行されており、日本幼稚園協会や「保問研」、愛育会などの各保育団体の関係者が寄稿していることも各号の誌面で確認された。そして、研究代表者は、それらの調査結果に基づき、「保問研」会員の論稿に特化する形で同誌を取りあげ、学会発表や論文執筆を行うという段階に至っている。

しかし、『国民保育』誌の歴史的立場づけについては、当然のことながら、「保問研」史だけにとどまるものでなく、総力戦体制下の保育・幼児教育史という大枠に基づいて分析・検討すべきものである。その取り組みは、史料や記録物の整理・発掘が大幅に遅れ、思想的な評価も難しいという1940年代前半期研究に新たな知見を提供し、戦前・戦後をつなぐ保育・幼児教育史研究に大きな貢献をするものだと見なされるからである。

保育雑誌『国民保育』は、「国民保育協会」編輯・フレーベル館(のちに日本保育館と改称)発行による「保姆教養雑誌」であり、1941(昭和16)年1月に第1巻第1号(創刊号)が発行され、1943年7月、第3巻第7号(通巻31号)まで毎月発行されていた。しかし、

同誌の原本は、四国大学附属図書館・東京家政大学図書館・大阪府立中央図書館（国際児童文学館）に所蔵されているものの、それらには欠号が見られ、未確認の状態にある。

本研究では、そうした実態を踏まえ、次の3段階で、当時の「国民保育」論へと迫っていく。1)『国民保育』誌について、すでに所蔵が確認されている原本の書誌的な検討と総目次の作成を行う一方、所在不明・未確認の状態にある巻号の調査も進める。2)それらの史料調査に基づき、同誌掲載の論稿・記事などを分析し、「国民保育協会」による編輯のもとで形成・展開された「国民保育」論の内実を検討する。3)そうした成果を踏まえながら、すでに先行研究がある『幼児の教育』や『保育問題研究(保育問題研究会月報)』、『愛育』など、他誌との比較による検証も行い、総力戦体制下の「国民保育」論が内包する歴史的特質の抽出を試みる。

### 3. 研究の方法

平成26年度(1年目)は、保育雑誌『国民保育』の書誌的調査及び文献収集を精力的に行い、所蔵の確認や総目次の作成、「国民保育協会」の発足・展開に関する歴史的背景の把握などの作業を進める。また、研究成果の中間報告も行う。

平成27年度(2年目)以降は、前年度における調査を継続する一方、それまでの成果を踏まえ、『国民保育』誌で展開された保育論の分析・検討や他誌との比較・検証などを進めて、総力戦体制下の「国民保育」論に内包される歴史的特質の抽出を試みる。また、研究成果の報告も続けて行う。

### 4. 研究成果

#### (1) 平成26年度(1年目)

保育雑誌『国民保育』について、すでに所蔵が確認されている巻号の書誌的な検討と総目次の作成を行う一方、所在不明・未確認の状態にある巻号の調査も進めた。また、研究成果の中間報告の公表も行っている。具体的には、次のような内容である。

『国民保育』誌の原本を所蔵する四国大学附属図書館・東京家政大学図書館・大阪府立中央図書館（国際児童文学館）の3館において、原本25号分（館相互・同館内で複本が見られるため、のべ42冊）の調査を行い、その複写及び書誌的な検討、目次・本文の照合に基づく総目次の作成といった作業を進めた。

同誌について、現時点では所在不明・未確認の状態にある巻号の探索を行った。

「国民保育協会」の発足・展開という歴史的背景を押さえるため、『幼児の教育』や『保育問題研究(保育問題研究会月報)』、『愛育』、『保育』、『社会事業(厚生問題)』など、

総力戦体制下において刊行されていた他誌の「彙報」などで保育界の動向を調べる一方、業界紙や行政資料等でフレーベル館を含む出版業界の状況についても把握した。

収集した文献などの分析・検討を行うとともに、それに基づいて関連学会での口頭発表へとつなげ、『愛育』誌掲載の「日本保育研究会々報」を手がかりとして、日本ペスタロッター・フレーベル学会第32回大会(於・鎌倉女子大学)で、口頭発表「戦時下保育運動の終焉と転生 恩賜財団愛育会『日本保育研究会』の組織・活動に見る『国民保育』論」を行った。

#### (2) 平成27年度(2年目)

平成26年度(1年目)における研究の遅れが見られたため、所蔵確認の作業を継続して取り組む一方、それまでの調査結果に基づいて、『国民保育』誌に掲載された論稿・記事などを整理し、「国民保育協会」による編輯のもとで形成・展開された「国民保育」論の内実を検討しはじめた。また、先行研究がなされている『幼児の教育』誌との比較に基づく検証の意味から、同誌の検討も進めた。具体的には、次のような内容である。

『国民保育』誌で所在不明・未確認の状態にある巻号の継続的な調査を行い、第3巻第3号及び同巻第4号以外の29号分について、和歌山県立図書館及び昭和館図書室での所蔵も確認ができた。

前記2号と原本の閲覧・複写ができなかった第2巻第4号の3冊を除き、28冊分の誌面全ページを確認して、総目次(まだ欠落部分があるため未発表)を作成した。

「国民保育協会」による編輯のもとで形成・展開された「国民保育」論の内実を検討するため、『国民保育』誌の創刊号へと掲載されている論稿・記事などを詳細に分析し、その成果を幼児教育史学会第11回大会(於・福山市立大学)で口頭発表「総力戦体制下の保育雑誌に見られる『国民保育』論 『国民保育』誌の創刊号を中心に」として公にした。

先行研究がある『幼児の教育』や『保育問題研究(保育問題研究会月報)』、『愛育』、『保育』など、他誌との比較に基づく検証を行うため、『幼児の教育』誌の「幼児の母」欄に関する分析・検討を進め、その成果を日本社会教育学会第62回研究大会(於・首都大学東京)で「総力戦体制下の保育雑誌に見る『母親教育』思想 『幼児の教育』誌の月刊『幼児の母』欄を中心に」として口頭発表する一方、『中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要』第17号にも投稿した。

(3) 平成28年度(3年目)

前年度までの作業を継続する形で『国民保育』誌の原本所蔵先に関する調査へと取り組む一方、それまでの研究結果に基づいて、同誌に掲載された論稿・記事などの状況を分析し、「国民保育協会」による編集のもとで形成・展開された「国民保育」論の内実を検討した。また、結果的に全巻号の発掘はできなかったものの、そうした作業の成果などを踏まえながら、総力戦体制下における同誌の誌面が内包していた特質の抽出を試み、関連学会における口頭発表及び研究ノート執筆も行っている。具体的には、次のような内容である。

『国民保育』誌で所在不明・未確認の状態にある巻号の継続的な調査を行ったものの、第3巻第3号(1943年3月号)及び同巻第4号(同年4月号)の所蔵先を見つけることができなかつたため、総目次は未完成(未発表)に終わらざるを得なかつた。今後も同誌に関する所蔵調査を継続して、何とか総目次を完成させ、それを何らかの機会に公表したい。

全31号中で所在不明・未確認の2つを除く29号分については、特輯記事などの分析を試み、日本ペスタロッツ・フレイベル学会第34回大会(於・広島大学)で、「雑誌『国民保育』に見る『国民保育』論 特輯記事を中心に」を口頭発表した。

これまでの研究成果を踏まえ、研究ノート「アジア・太平洋戦争下の雑誌『国民保育』その書誌と誌面の内容的変遷」も『中部学院大学・中部学院大学短期大学部紀要』第18号に投稿した。それは、管見による限り、研究期間の終了時点で、『国民保育』誌を単独で扱った論稿が公にされていなかったことから、その端緒を開いたものとして位置づけられよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

浅野俊和 アジア・太平洋戦争下の雑誌『国民保育』その書誌と誌面の内容的変遷 中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要 学内査読有 第18号 2017年3月 pp.75-85

浅野俊和 1940年代前半の保育雑誌における「母親教育」記事 『幼児の教育』誌の月刊「幼児の母」欄を中心に 中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要 学内査読有 第17号 2016年3月 pp.29-40

[学会発表](計4件)

浅野俊和 雑誌『国民保育』に見る「国民保育」論 特輯記事を中心に 日本ペスタロッツ・フレイベル学会第33回大会 2016年9月10日 広島大学(広島県広島市)

浅野俊和 総力戦体制下の保育雑誌に見られる「国民保育」論 『国民保育』誌の創刊号を中心に 幼児教育史学会第11回大会 2015年12月5日 福山市立大学(広島県福山市)

浅野俊和 総力戦体制下の保育雑誌に見る『母親教育』思想 『幼児の教育』誌の月刊「幼児の母」欄を中心に 日本社会教育学会第62回研究大会 2015年9月19日 首都大学東京(東京都八王子市)

浅野俊和 戦時下保育運動の終焉と転生 恩賜財団愛育会「日本保育研究会」の組織・活動に見る「国民保育」論 日本ペスタロッツ・フレイベル学会第32回大会 2014年8月31日 鎌倉女子大学(神奈川県鎌倉市)

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅野 俊和 (ASANO, Toshikazu)  
中部学院大学・教育学部・教授  
研究者番号：00300351

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：

(4)研究協力者

( )